

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800016		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム ふるさとの丘		
所在地	夕張郡長沼町東2線北15号		
自己評価作成日	令和5年2月19日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地、庭には東屋があり休憩場所となっております。パークゴルフや野菜の収穫、秋には、栗ひろいなど、楽しめます。昨年は初めてリンゴの収穫ができました。ホーム内の共用スペースは広く、ゆったりと過ごすことができます。一人ひとり落ち着いた環境で安心して暮らすことが出来る様支援しています。各居室には、エアコンが設置されています。コロナ禍でまだ、外出、面会の制限がありますがストレスをためる事無くホーム内は笑顔が絶えません。コロナ感染予防の為、現在は中止していますが、毎月第四日曜日に地域お茶の間”ライスカレーの会”として地域の皆様が集える場を提供しております。3月よりライスカレーの会を再開する予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の北長沼地区にある開設12年目を向かえる1ユニットの事業所で、元保育園の建物で鉄筋コンクリート造り一階建てである。内部の広いリビングダイニングルームは芝生庭に面し明るく開放感あり、設えも上品で落ち着いた空間であり、居室にもクーラーを設置し快適に過ごせるようにしている。パークゴルフ場や広い畑、東屋を設備しており、天候の良い時期は感染症対策で自粛する事もなく戸外で思う存分に好きな過ごし方で楽しめている。戸外に出ない時の午前中は室内でミニゴルフやスプーンリレー、職員手作りゲームなどの軽運動を行い、午後からはパズル、江戸いろはカルタ、計算ドリル、塗り絵や新聞を読んだり、脳トレと称し思い思いに過ごしている。平均年齢90歳を超えているが、暇だから何かしたいと取り合うように家事に参加したり、畑の草取りも我も我もと夢中になるなど大変活動的である。病院での医師の質問にしっかりと返事をしたり、他者に合わせての談笑や庭に来たつがいの鳥の名前を職員に雑と教え、更に皆で会話が盛り上がるなど生き生きとした日常がある。個々の生活課題を丁寧に抽出し、口腔ケアや衣服の着脱、入浴やトイレ排泄もできる力を支える介護に徹し、本人を支え合う家族との関係も大切にしている。職員退勤時に利用者が手を振って見送るなど自分の家だと思っている様子があり帰宅願望の表出がないのも特徴である。利用者一人ひとりの活力を引き出し、理念にある通りに生活を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的(ミーティング時)に理念を唱え、その意義や役割を職員全員確認し共有できるよう努め実践へと繋げています。ホールに理念を掲示して個々で確認に努めています。	「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「地域とともに」の理念を標榜し、利用者の安心できる暮らしの実現に努めている。理念はパンフレットに明示し共用空間に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で毎月第4日曜日に行っていたライスカレーの会を中止していたが3月より再開する予定です。地域の方より、ミニトマトなどの差し入れがありました。	感染症流行以前の自由で活発な地域交流は自粛中ではあるが、「ライスカレーの会」再開へ向けている。消防団員が啓発活動で訪れたり、地域住民から野菜のお裾分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方へのかかわり方や付き合い方について相談があればお話をさせていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策の為運営推進会議はおこなっていませんが、地域の方やご家族様がみえた際、または、電話、メールなどで近況報告、活動内容を報告しそこで頂いた意見を書面に残し、保管しています。	令和2年度、3年度の開催は感染対策により見送られたが、今年3月に町保健福祉課長、地域関係者、家族代表等の出席を得て参集開催がなされた。利用状況報告等の他、資料を提示し日常生活自立度判定基準を解説するなど情報提供を行った。	議事に事故やヒヤリハット、職員の異動等を充足し構成員や全家族がよりモニターしやすい内容の検討や家族代表以外の家族からも意見等を得る仕組みの構築に期待したい。今後、感染対策により参集開催が難しい場合には書面開催の運用が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長沼町の実施するサービス調整会議へ出席し他事業所とサービスを含めた実情や現状、困難事例等を報告し合い、様々な専門分野の方からアドバイスなど受け十分な連携を図り、関係を築いています。	町の保健福祉課担当部署へは法人本部担当者が必要書類の届け出や運営状況を伝えるなどの連携に努め、管理者は町主催の地域ケア会議に参加し事例検討や情報交換、集団研修を受けるなどしてサービス向上に向けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為をマニュアル化し共通の理解へと努め、玄関に施錠せず徘徊を見守る、薬にできるだけ頼らない睡眠の確保など身体拘束の排除に積極的に取り組んでいます。身体拘束廃止委員会の実施。	身体拘束廃止に関する指針を定め、法人合同の「虐待防止・身体拘束廃止・感染症委員会」を3か月に一度開催し身体拘束等の適正化に努めている。これらに係る研修は法人合同研修の他に事業所独自に実施しており、場面想定事例資料を元に学びを深めている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、事業所全体で共通の理解をもって虐待が見過ごされることのないよう努めています。日々の申し送りや話し合いで利用者に対して虐待が行われていないか注意を払い防止に努めています。虐待防止委員会の実施。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会があったが、これまでその制度を利用するに至るような事例はありませんでした。必要性があると判断した際には、それらを活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく文書も用い十分な時間をかけ説明を行い、理解納得が得られるまで話し合いをし同意を得てから契約を結んでいただくよう配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際に意見を伺ったり利用者から要望を伺う様努めています。外部者も参加される行事や運営推進会議の際に意見要望があれば早期に対応するよう努めています。	利用者の言動や意思表示に対し、職員がその都度、満足や快適となるよう応答している。家族とは接する機会に思いや意向を聞いている。家族からは本人や職員へ温かい言葉が寄せられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい職場環境をつくるためいつでも意見を言える雰囲気や関係に努めミーティングなどで意見、提案を出してもらい、職員それぞれが工夫したことを現場で反映されるよう努めています。	週に一度、運営者と管理者が運営等に係る情報交換を行ったり、理事長が現場に訪れて利用者や他の職員と対面する機会がある。管理者は日々の中で気軽に職員と話す機会を持ち、夜勤者からの夜間支援の相談や業務調整を図り働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、やりがいや向上心を持てるよう個々の能力に合った責任ある仕事を任せ、それに見合った給与等を含めた労働条件の整備に努められています。事業所を訪問し職員や利用者との交流を心がけておられます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状態から職員一人一人のケアの質や力量を把握するよう努めています。コロナ禍の為、外部の研修は、ありませんが2ヶ月置きに内部研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上やネットワークづくりを目的に同業者主催の研修や勉強会へ参加させていただいていますがコロナ感染予防の為交流の機会は少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、家族からの情報、本人からの要望を聞きご本人が抱えている問題や不安へ耳を傾け主体性を尊重し安心できる関係づくりに努めています。職員間で情報の共有を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご家族の抱えている問題や不安等を伺い要望などに耳を傾け応じられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのような支援を必要とし望んでいるのかを幅広い視野で見極め、柔軟な対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護されるだけの弱い立場に置かず、人生の先輩、互いに共生するものとして相談したり頼ったり関係性を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支援する上でご家族へも協力を求め通院の同行などご家族参加型の支援となるよう努めています。お便りなどで近況や良いエピソードなどお伝えしております。家族から誕生日プレゼントの贈り物などがあり利用者もとても喜ばれています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出などは制限されていますが、友人や知人等が面会に来られ玄関ホールで距離を保ちお話されている。電話や手紙をなどで関係が途切れないように支援しています。	家族面会は玄関で行われ、利用者は馴染みの家族と会話を弾ませている。職員は家族が持ってきた葉書に手紙が書けるようにサポートしたり、電話を取り次いでいる。在宅時に聞き慣れている町広報無線が共用空間にあり、利用者へ馴染みの音声が届けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、利用者の個々の性格など把握し孤立することなく関わり合い支えあえるような支援に努めています。テーブル席などはトラブルや訴えがあれば早期に随時変更しています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も定期的にご家族と連絡を取りつつ経過を見守り、状況に応じ相談があればいつでも連絡下さるよう伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情などからご本人の意思を推測するなど、希望や意向の把握に努めています。	利用者へはその都度意思や意向を確認し対応している。意思表示や言葉にできない場合は、普段との違いを見比べ検討したり、朝からの様子を振り返り、困りごとがないかを推し測るなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話の中から生活歴をしっかりと確認し様々な生活習慣をできるだけ変えることなく生活スタイルを維持、継続出来るような生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認申し送りノートの活用で生活リズムを理解し行動表情などから現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場だけでなく日々の個人記録とご本人やご家族の意見等も参考に、ご本人の現状に即した介護計画となるよう努めています。	介護支援専門員が週に2回業務に入り、利用者と一緒に過ごしたり職員との意見交換や情報収集するなどしてモニタリングしている。生活に対する意向を踏まえた課題分析の結果を詳細に現し、関係者間の意見も反映させより良い暮らしとなる計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を介護計画に照らし合わせながら記録し、職員間で連携をとり情報を確認しながら実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々にあった接し方や対応を心掛け要望などに沿えるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、地域の方との交流は控えているが町内を散歩したり田んぼの稲を見学して季節を感じてもらえるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、それまで通院されていたかかりつけ病院内で希望の医療を受けられるよう、支援に努めています。専門的な治療は、専門医療機関など状況に合わせた診療体制を取っています。	希望するかかりつけ医が可能で往診を受けている利用者もいる。町外は基本家族対応であるが、キーパーソン不在で必要科目が遠方の利用者にとっては、町内通院と同様、管理者が対応している。必要時の歯科往診や週に一度看護師が訪れ健康管理を行っている。	

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様が適切な診療、看護を受けられるよう看護職員へ一人ひとりの情報を的確に伝えることに努めています。事業所内の訪問看護師とは密に連絡、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、情報提供を行い安心して治療を受けられるよう、病院関係者と電話での情報交換、相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針について契約書に明記されており、実際に状態が悪化しつつあり回復が見込めない可能性があるとして医師より診断された場合や想定される場合、ご家族や医師と今後の方向性について協議し、最良な援助につながるよう努めています。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し同意を得ている。状態変化時は医師の判断に基づき関係者間で協議を重ね今後の方針を取り決めている。家族の意向を踏まえて特別養護老人ホームや老人保健施設への移行支援を行っている。	対応指針にある、医療関連専門職との連携による重度化・終末期ケアの充実に向けた職員教育と研修の実施に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応等の訓練を行い、万一の場合に備えています。以前受講した心肺蘇生、AEDの使用方をミーティング内で確認しています。訪問看護師から急変時の対応注意することなどアドバイスいただいています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	万一の場合に備え日中、夜間想定ともに行っています。コロナ感染予防の為消防職員の出向はありませんが訓練通知書届出時に避難、誘導のアドバイスを頂いています。	令和4年3月夜間想定火災避難訓練、10月は日中想定地震・火災避難訓練を実施し、住民の参加は見送っている。地震訓練は窓から離れテーブル下へ移動、座布団で頭部を隠すなどした。備蓄品は法人の他、事業所でも幾らか蓄えている。BCP策定に向けている。	自然災害発生時における業務継続計画の中身とはなるが、雪害や停電など、想定される災害場面の課題を抽出し、対応策を協議するなどに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、生活環境などを踏まえ、言葉や口調、声のトーンなどに気を付け個々にあった声掛けを心掛けている。	職員帰宅時に利用者が手を振って見送るなど、介護する側される側一辺倒にならない共に過ごす関係性を作り上げ、温かい気持ちで利用者へ寄り添い支えている。不適切ケアの事例を学び接遇に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常から思いや希望を表現しやすい環境をつくることに努め、無理強いをせず、判断、決定の機会を捉えて生かすよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることが多いが業務優先ではなく、利用者一人ひとりのペースで無理強いをせず希望にそった生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際と一緒に洋服を選んだり、ひげ剃り、爪切り、耳掃除など定期的に行っている。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞きながらメニューを決めたり簡単な調理、準備、下膳、食器洗い等ができる方についてはお手伝いをお願いし共同作業するよう努めています。行事食などもありとても喜ばれている。	法人の栄養バランスや季節感ある献立で、利用者の希望の麺類を添える時もある。理事長から行事等にオードブルや生寿司、チョコレートの詰め合わせや季節の果物などの差し入れがあり、管理者の手作りデザートも利用者には好評である。	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じメニューでも一人一人の好みや状態に合わせ、食材、硬さ形状等に配慮し一日の食事、水分が適正量、確保できるよう、一人ひとりの状態、習慣等に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後の3回、本人の状態に合わせた口腔ケアを心がけ、清潔保持に努めています。ポリデントの使用を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、利用者の仕草、落ち着かない様子などのサインを読み取り、排泄の促し、誘導など自立支援に努めています。	尿意便意を失念している利用者への定時誘導やいつもと様子が違う時などには、「トイレに行きますか？」と声かけし気持ち良い排便などにつながる事もあるなど、職員は一人ひとりの状況を見極め、日中、夜間共に個々に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取、適度な運動を促すことで予防に繋がるよう努めています。午後の茶話会には果物ヨーグルトを必ず提供しています。おなかのマッサージなども行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に当てられる時間の範囲内で、できる限り一人ひとりのペースや希望にそった入浴を提供できるよう努めています。入浴できないときは清拭、足浴を実施しています。入浴剤を使用し色々な香りを楽しんでいただいています。	曜日を問わず午後からの入浴で全員湯船に浸かれ、「さっぱりした、体が軽くなった、上がりたくない」の声があるなど気持ち良い入浴となっている。見送りがちな利用者へは「きまりだから入りませんか」と問いかけし、「きまりなら仕方ない」と、自らの意思で向かえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握した上で、その時々状況に合わせて臨機応変に対応し、安心して気持ちよく眠れるよう室内の温度にも注意を払っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用や用法、容量等について正しく理解し、毎日の様子や血圧変動排便時の確認を行い、不明な点があれば随時薬剤師に連絡し相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、食材の下処理など出来ることをして頂いています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、庭を散歩したり、東屋で涼んでいます。玄関先で日光浴していると地域の方が通り挨拶を交わします。	天候の良い時期は事業所周辺の散歩はもとより、共用空間ホールから直接庭に出て、外気浴や馴染みとなっているパークゴルフ、畑、東屋で一服など、利用者の希望に合わせて支援している。畑では20種類ほどの野菜・果物を育て、昨年初めて林檎の収穫もでき一層楽しい戸外となった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を遣われる機会は少ないのですが、持っているだけで安心するという方も多いので、管理できる方については所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族や大切な方へ電話を取り次いだり、年末には年賀状を書いていただいたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を出来るだけ快適にご使用いただくため、狭くしたり障害となる物を置かないことやいつも綺麗な状態しておくことに心がけています。ホールには季節を感じられる飾りつけ（お雛様など利用者と一緒にしています。	事業所敷地が広大であり戸外を楽しむ環境構成に優れている。玄関はガラス張りで開放感があり、共用空間ホールは広く、外の景色が見渡せゆったりとしている。華美な装飾はなく落ち着いた雰囲気がある。全体的に清潔感があり居心地のよさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のスペースを広くとり、一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるよう表情や行動等へも注意を払い快適な空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談、確認しながら、居室へはできるだけ使い慣れたもの、好みのものをお持ちいただき居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	居室には、クーラー、介護用ベッド・マット、タンス、ラックの備え付けがある。使い慣れた調度品やテレビ、衣装ケースなどが持ち込まれ、家族の写真を飾ったり思い思いに飾りつけをするなど、その人らしく安心できる設えをサポートしている。趣味や特技としている物を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなどには手すりが多く設置されている。トイレは4ヶ所あり、3ヶ所は車椅子でも楽に介助出来るようになっている。安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるよう努めています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさとの丘

作成日：令和 5年 4月 1日

市町村受理日：令和 5年 4月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について	年2回日中、夜間想定 of 火災訓練の他、地震、台風、風雪被害などを想定した訓練、研修を行う。	どのような災害でも対応できるように色々な事例を上げ話し合い行う。職員一人ひとりの災害に対する意識を高める。	6ヶ月
2	33	重度化や終末期ケアに対する研修が実施されていない	重度化や終末期に関する指針の内容を職員間で共有できるようにする。	医療連携の強化。職員一人ひとりが重度化や終末期に対して向き合っていけるように、訪問看護師などを交えて勉強会、研修を行う。	1年
3	4	コロナ感染対策により、運営推進会議が開催されていない場合でも書面開催の運用がされていない。議事録に事故報告やヒヤリハットの記載がない。	感染の状況により、運営推進会議を開催し、されない場合は書面会議を行い、資料の送付にて開催の代替えとする。活動状況などに関する報告を詳しく行う。	感染の状況により、法人本部、行政機関等と開催について協議していく。活動状況の報告、事故報告、ヒヤリハットの事例対応状況その他の報告などについて法人本部と検討する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。